

2016年9月29日

いわき市長 清水 敏男 様

要望団体代表

福島県山岳連盟石城山岳会

会長 秋葉 信夫

要望書「三大明神風力発電・田人風力発電について」

市政発展のため努力されていることに対し、敬意を表します。

さて、(株)ユーラスエナジーホールディングスにより、平成31年の運転開始の予定で「三大明神風力発電」「田人風力発電」が計画され、準備書の縦覧、説明会が開催されました。

発電所の概要は三大明神風力発電が「最大35,700kW(定格出力2,100kWを17基設置)ローター径約83m、ハブ高さ約75m、最大高さ117m」です。

田人風力発電が「最大21,600kW(定格出力3,000kW級を6基設置)ローター径約108m、ハブの高さ約79.5m、最大134m」です。

マリインタワーの約2倍、郡山の「ビッグアイ」と同程度の高さの巨大なタワーが山の稜線に林立する様子を想像してみてください。

幅4.5m～5mの工事用の道路建設の他、タワーの基礎工事では地下数十メートルまで掘り下げられ1基当たり生コン車(10トン)200台以上の大量のコンクリートが流し込まれます。

個々の風力発電に問題があるばかりでなく、他に計画されている北茨城風力発電と阿武隈風力発電とも近接しており、複合して考えれば環境に与える影響も極めて大きくなります。

いわき市内のいたる所に老朽化した炭鉱施設がいまだに残っております。当時は最先端の施設として建造されたものですが、高さ10数メートルのコンクリートの塊は老朽化して現在は大変危険な状態です。この建物の解体の責任はどこにあるのでしょうか、住民は不安です。

同じように今回の風力発電も原発代替エネルギーの旗のもとに民間企業が利益追求の中で最新技術を投入して建設しようとしております。10年、20年後その施設は天災や老朽化しても建替補修等が完璧に行われて、住民の安全が担保されるのでしょうか。そして発電事業終了後にその景観は復元されるのでしょうか、はなはだ疑問です。

炭鉱事業はいわき市に多くの雇用と産業を創出してくれました。風力発電は観光に寄与

することもなく、炭鉱町の負の遺産に、また風力発電の負の遺産を追加させるだけです。

下記の通り、縦覧・説明会での問題点の指摘と要望をしますので、誠意ある回答をお願いします。

記

1 総括的事項

(1) 縦覧について

三大明神風力発電の環境影響評価準備書の縦覧がされました。しかし、持ち出し・複写・撮影禁止では、私たちのような一般人が、この膨大な資料を読み解くことは困難です。電子縦覧もされているが期間を過ぎるとみることができません。

(2) 説明会について

説明会の冒頭に「説明会の撮影、録音は禁止。主催者側の撮影、録音はさせていただきます。」は納得できません。

入旅人公民館での説明会では 19 時から 21 時の予定が会場の都合という理由で 20 時 40 分までにされ、質問も 1 人 2 件以内と制限されたので住民の疑問に答えないまま終了しています。

実測値または予測値が環境基準を下回るとされていますが、果たして山間部に都市部の環境基準を当てはめてよいのでしょうか。

事業者の説明は都合の良いことばかりで、問題なしの根拠が明らかにされないまま、「すべて問題なし、問題あれば検討します。」のあいまいな表現に「善処してくれる」と誤解を与えて納得させており、不安は解消されていません。

その不安を解消するのが対話であり情報の公開だと思いますが、あまりにも一方的すぎ、不十分です。

2 地元メリットについて

地元自治体の税込増加（操業期間に亘る固定資産税増）とありますが、固定資産税が増えても地方交付税が減額されるので増収はないと聞いています。都合の悪いことは隠しています。

メリットは建設期間に地元業者を起用することのみです。観光客の増加、教育資源になるかの如く話されましたが、具体的に説明されていません。過去には観光客の増になった例もありますが、風力発電が珍しくなくなった現在では、観光客が減っていることを先例が示しており、地元へのメリットはありません。

3 いわき市の意見書に答えていない

- ① いわき市の意見書に「落雷や強風等による風力発電機の破損・倒壊事故が発生しており、近年、気象変動による土砂災害が増加する傾向にあることから、安全対策を準備書において具体的に示すとともに、万が一事故が発生した場合の復旧方法や風力発電耐用年数経過後の対応についても、準備書において具体的に示すこと。」とされています。

しかし、維持管理、落雷、故障、事故等の対応、耐用年数 20 年を過ぎた場合、営業終了後施設はどうするのかに触れていません。

- ① 景観については「住民の生活領域における各風力発電機の垂直見込角ができるだけ、2 度を超えることのないように、風力発電機の配置を計画すること」が達成されていません。

田人風力発電では、最大 4.8 度にもなるのに主要な眺望環境への影響は小さいとしています。

ここで言っている垂直見込角は鉄塔の基準です。向こうが透けて見える鉄塔と風力発電のタワーでは見え方に大きな違いがあります。茨城県の「自然公園における風力発電施設の新築および増築に関わる許可措置命令指導指針」における「視野角 1 度未満」「視野占有率 0.02%未満」を準用すべきです。

また、計画の三大明神からニツ石山、鶴石山の稜線はいわき市内の主要市街地から望むことができる美しい稜線です。八潮見城、登山者の多い往生山、水石山、市街地も主要な眺望点、景観資源、主要な眺望景観に入れるべきです。

例えば、仮に景観をシミュレートすると、水石山から眺めるこの美しい稜線が



こんな眺めになってしまいます。

(風車の大きさと位置は正確ではありませんが)



- ② 騒音、低周波について

『施設の稼働時における「騒音」及び「超低周波音」については調査期間を4季に分けそれぞれ設けること。』『稼働後に付近住民から「低周波音」に関する苦情が申し立てられた場合の環境保全措置について検討し、可動制限を含めて、その検討結果については準備書において具体的に示すこと。』が示されていません。

- ③ 自然との触れ合い、

「いわき七峰縦走」についてのみで、「オートキャンプ場、ハンモックガーデンについては触れていません。

4 風力発電の影について

不快感を与える可能性があるとしながら、具体的に説明していません。

5 水質は記載してあるが流量について触れられておらず、土石流の不安が解消されません。水源が確保されるのか、周辺住民の全戸の調査が必要です。

6 野生動物について、原発事故以来イノシシが増えています。イノシシへの影響、家畜への影響に触れていません。

7 要望事項

(株)ユーラスエナジーホールディングスにより2010年12月より運転開始した「ユーラス滝根・小白井ウインドファーム」の発電・売電実績が公表されておらず、自然エネルギーとしての風力発電がどの位寄与しているのか・いないのか判断の材料がありません。情報公開と真摯なる対応を求めます。

- ① 有効な発電・売電がされるのかどうか分かるように、発電・売電状況を公表すること。
- ② 温室効果ガス排出削減になるとの説明ですが、現在稼働の風力発電では削減になっていません。具体的削減量を明らかにすること。
- ③ 地元メリットを具体的に示すこと。
- ④ 低周波・騒音等で示された基準値・参考値は安全値ではなく、3kmより遠くの住民にも被害をもたらしております。発生した場合の運転停止を含めた速やかな対応を約束すること。
- ⑤ 水源については個々の計画では問題なしとされていますが、これらの複数の計画が実施された場合、広大な水道水源保護地域が含まれることとなります。その複合的な影響を明らかにすること。
- ⑥ 地元へのメリットは全くなく、我慢と犠牲が強いられ、事業終了の20年後、残るのは廃物となった巨大な施設と自然破壊のみとなることを危惧します。
- ⑦ 福島県のアフターDCの調査集計でも、「登山など自然を体感できる地域を訪れる観光客は増加」しており、この計画は「山の資源を生かし観光交流人口を増やそう」しているいわき市の施策とも矛盾するものです。十分な説明、住民理解を得たとは言えません。いわき市が事業者に対して環境破壊に対する配慮をするよう要望すること。
- ⑧ いわき市が県並びに関係機関に、この風力発電建設に関わる環境破壊に対して配慮するよう要望すること。

要望団体

石城山岳会 秋葉信夫

〒972-8325 いわき市常磐白鳥町竜ヶ崎 17-2 0246-43-7767

わらび山の会、りんどう山の会、小名浜山岳会、つくし山の会、勿来岳友会、藤原山の会

賛同団体

福島県登山ガイド協会、登楽喜会、無想山の会、あだたら登山学校、こめつが山の会